

インドネシアの違法伐採は減少したが…

—改訂版・2014年7月—

[インドネシア NGOs、違法伐採停止を求め、調査・告発！]

インドネシアはブラジル、コンゴ民主共和国に次ぐ世界で3位の熱帯林を保有(世界の約10%)している。しかし、スハルト政権時代に異常な森林開発を進め、また汚職・腐敗や私利私欲での開発が行われた。例えば兪頌(ふんけい)の友・ボブ・ハッサンを林業大臣に長らく抜擢し、ハッサン所有する企業に伐採権をどんどん与えたのである。そのため1990年代までの間、年間2000万m³以上の原木が生産され、それに続く泥炭湿地等の農地への転換の為、森林減少が世界的な問題となり始めた。

その後、スハルト政権以降の混乱で、地方政府が伐採権発給を要求して異常に増やし、違法伐採・森林火災・アブラヤシ開発・泥炭湿地からのCO₂の大量発生の問題が起きた。

とりわけ、地方政府が伐採権を乱発して低地の熱帯林だけでなく、国立公園等での違法な伐採を認めるようになり、丘陵部の森林も破壊した。インドネシア NGOsの Forest Watch Indonesia、Telapak(テラパック)、WALHI(ワルヒ FoE Indonesia)、WWF インドネシア、KAIL(カイル/The Anti-Consortium Notes Illegal Logging of Kalimantan)等の NGOsが違法伐採につき政府へ繰り返し停止を要求した。

2000年以降は国立公園内や保護林でも違法な伐採がされ、違法材輸出の発覚で多くの NGOsの国際的な違法伐採停止へのキャンペーンが始まった。

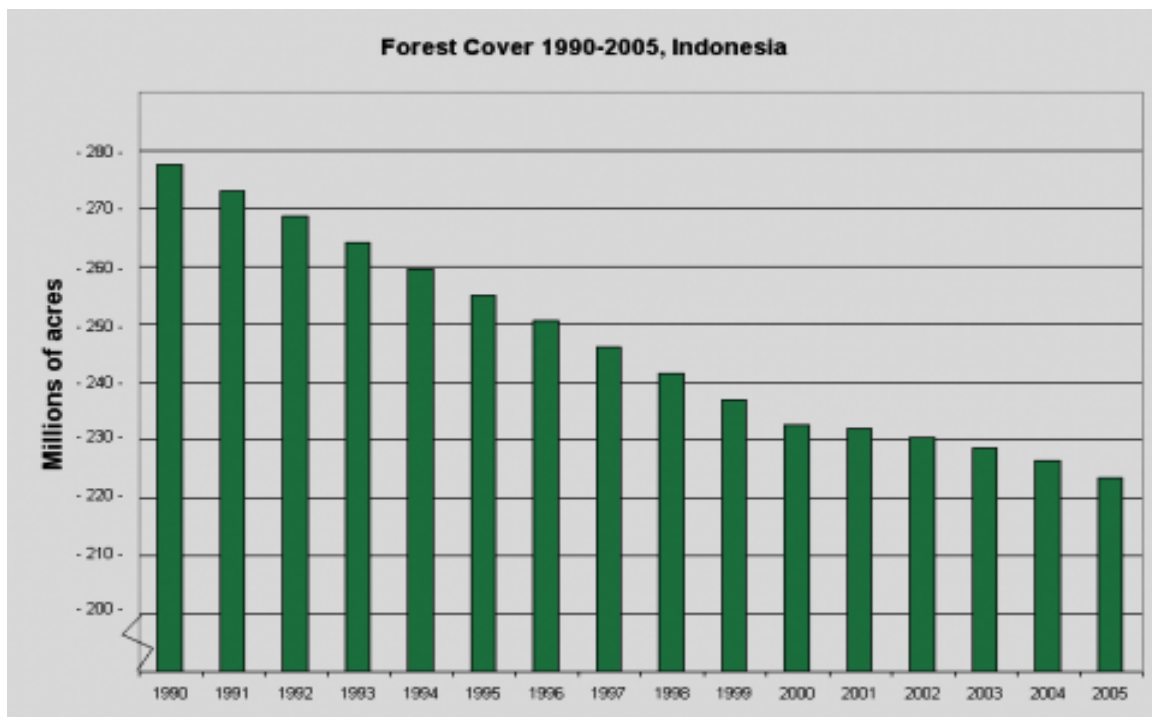


図: インドネシアの森林減少(1990-2005年) by Forest Watch Indonesia より

【事例1】絶滅危惧種ラミンの違法伐採 Stop の調査・告発・停止申入れ

代表例は、泥炭湿地などに生えるラミンの違法取引へ停止の行動だ。商業材としてはメランティ、カポールなどが合板材として使用されていたが、ラミンは 1980 年以前には見向きもされない樹木であった。だが、白くて加工しやすい材と判り、写真フレーム、ベビーベッド、ビリヤード棒などに多様に利用され、インドネシアからマレーシア、シンガポールを経由して日本、EU、アメリカ、台湾、中国等に輸出された。2000 年前後から密輸などの違法な木材取引の中心であった。

ラミンは、マレーシア・サラワク州で 1980 年伐採禁止され、インドネシアでは国立公園等で違法伐採された。インドネシア、マレーシアでの 1990 年頃のラミン生産量は 100-120 万 m³であった。異常な違法伐採でマレーシア、インドネシアの生産量は、2000 年に 10 万 m³もない。正にラミンは貴重樹種となった。Telapak や国際 NGO の EIA やウータン等が現地調査を行い、使用停止へキャンペーンを実施した。



このラミン材の違法伐採・違法取引・密輸について、トラフィック・アジアは調査で、「カリマンタン島からサラワク州の国境越えの密輸は 2003 年 6-7 月で約 1 万 m^3 (トラック 23, 806 台分) の木材を記録」と指摘している。また、インドネシア・西カリマンタンのカプアス・フル森林事務所の職員は「2003 年に 191,348 m^3 の木材がマレーシアに運ばれている」(インドネシア税関報告が 1456 m^3 、マレーシア当局は 112,192 m^3) と言う。インドネシアの同森林保護局は、「サラワク州ルボツ・アンツー近くの西カリマンタン・バツン・ケリフン国立公園の大きな泥炭湿地にラミンがかなり生育していた。2003 年マレーシア・サラワク州へは 19 万 m^3 の違法伐採材の取引の内訳がラミンは約 30% (57,000 m^3) と推定で、輸出された」という。

しかし、ラミン材等の違法伐採を運び入れたマレーシア・サラワク木材産業開発公社(STIDC)は「17%が軽量の硬木類の混合である」と申告し、ラミンの申告は皆無で

あった。このラミンを含む木材の違法貿易(密輸)は、国境付近のマレーシア税関事務所が境界から 20km のタビドウの町でされていた。国境ではチェック・ポイントもなく、密輸は容易く行われた。多くの NGOs はサラワクの未審査を大問題にした。

【事例2】NGOs 告発から2007年にインドネシア警察も動き出し、逮捕へ！

1990年代後半から 2004 年のボルネオ島における違法伐採材は、森林が減少して保護区・国立公園で行われるようになった。

中カリマンタンのタンジュン・プテイン国立公園やセバンガウ国立公園でされ、積出港から主にジャワ島へはこばれた。西カリマンタンのグヌン・パルン国立公園、バツ・ケリフン国立公園、サンバス森林保護区等からは、州都ポンテイアナックを經由してマレーシア・サラワク州のセマタン、ルボツ・アンツー、バツ・リントン、タビドウに運ばれていた。東カリマンタンからはヌヌカン、タラカン、タンジュン・セロール地域からマレーシア・サバ州タワウ等へと運ばれていた。表のように、各国立公園や森林保護区に違法な伐採道路が建設され、木材密輸がされた。

表* 保護地区の造成の伐採道 (Supporting Online Materials for Curran et al.(RE 1091714)より)



(左・インドネシア東カリマンタンのスブク地区の木材貯木場 /右・東カリマンタンから翌朝 6 時にマレーシア・タワウ市郊外 Kalabakan[カラバカン]の木材工場へ密輸材の運び入れ)

Photo/by HUTAN Group/ Nishioka/ 2008/9月—2010年7月

2007年5月28日のインドネシアの『Tempo』マガジン(*1)によれば、「地方警察が木材マフィアと組んで違法伐採や密輸を助長していた。マレーシア・サバ州国境近くの東カリマンタンで、2007年に国家中央警察の指揮で違法伐採の摘発が始まった。

まずヌヌカンと東クタイ地区警察署長を解任させた。解雇は違法伐採・密輸の容認に繋がっていたからだという。違法伐採を追い詰めるためのチーム造りだった。警察署長の解雇から2週間後、密輸摘発への行動は開始された。

密輸に深く絡む地域において、30旅団のメンバーでの陸・海上調査や空からヘリコプターで捜査を始めた。マレーシア・サバ州国境の Semenggaris(セマンガリス)で2万m³以上の違法伐採を発見する。(2010年ウータン調査が調査して、たまに密輸すると判明) 4名を逮捕したが、木材ブローカーは急いでマレーシアに逃亡した」との報告だ。

同月の Tempo 誌で、ヌヌカン地区副議長のアブドル・ワヒドが手口を明かした。「密輸業者は違法材を積み込み、東カリマンタンを午後8時頃に出帆し、川や海を通してマレーシア・サバ州のタワウに翌朝早くに到達して木材を密輸する。地域の状況を判断して、密輸業者はセーフと判断した場合、セマンガリスやスブク、セバキスや、もっと南の東カリマンタンからの違法木材運び入れをする。つまり夜中にインドネシアからマレーシアに密輸している。国境に到着を午前1時とし、マレーシアの森に違法木材を潜ませる。違法な手数料をインドネシアとマレーシア双方の国境の警備員に手渡していた。3か月毎に賄賂の合計が7.5億ルピア(約750万円)の徴収だった。

船は50－200m³の木材を積んでいる。インドネシア側の10数名の兵士を逮捕した」と報告だ。

インドネシア NGO・Telapak の Yayat(ヤヤット)氏によれば、違法伐採の完全な排除は難しい。強力なマレーシアの木材マフィアがいるからだという。このグループはインドネシア企業に資本を貸し、違法伐採をしてマレーシアへ運び入れると指摘する。

(* 1) 『Tempo』

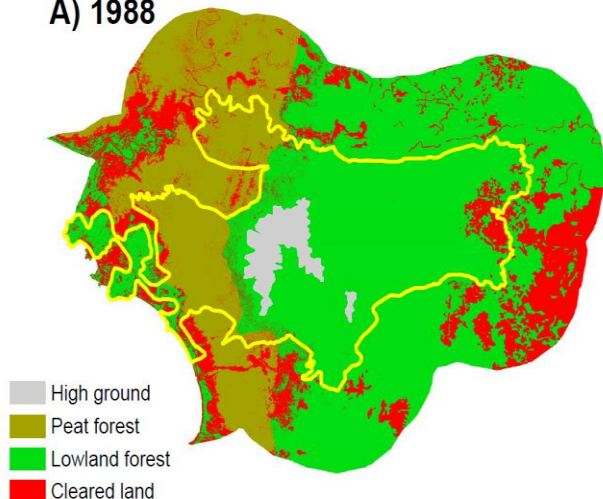
【事例3】 やっと違法伐採企業のボスの逮捕・・・西カリマンタンで密輸激減へ！

2007 年の「同じ頃、西カリマンタンのケタパン地区で違法伐採が繰り広げられ、アラス・クスマ・グループの T ウォン容疑者を含め、4名を違法伐採容疑で取り調べた。汚職の罪に直面する彼は、植林資金と公金横領容疑であり、その金額は4. 8億ルピアに相当するものだという。(* 1) 『Tempo』 * Gunung Palung N.P(グヌン・パルン国立公

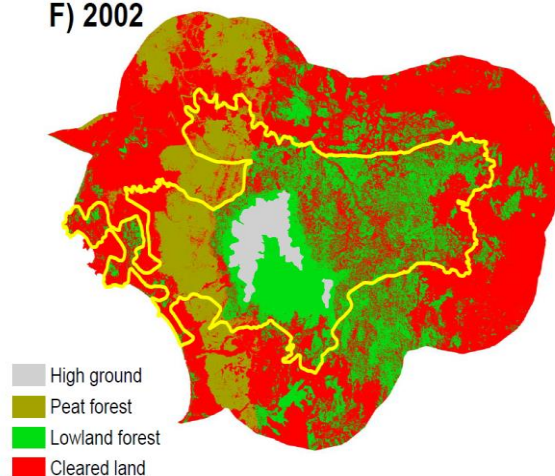
園)の違法伐採の例 * 図 A)と F) 図を見て

わかるように Peat forest(泥炭地森林)と Lowland forest(低地の森林)部分で赤色の Cleared land(皆伐地)に変化したのがランドサットからの情報である。2005 年に私たちウータンと Telapak 合同調査でアラス・クスマ・グループや村の住民が違法伐採し、グヌン・パルン国立公園からラミン、ウリン、セランガンバツ等の木材を公園から運び出し、密輸していた。大半がマレーシア・サラワク州へ運ばれていた。しかも森林警察の 1 部の警官がグルになっていたのも、Telapak と「違法伐採に手を貸すな」とケタパン警察本署に強く申し入れ、ジャカルタ森林警察に違法伐採を申し入れた。

A) 1988



F) 2002



GP 国立公園・・・緑色の森林地帯の大半が Cleared land(皆伐地)に変化している・・
資料—Fig.S1.Cumulative forest loss within the Gunung Palung National Park(GPNP) より
Forest/non-forest classifications are based on a Landsat TM time-series: A)1988 F)2002



Gunung Palung 国立公園での伐採(2005) 同地区からサラワク州セマタン港へ運ばれた(2005)

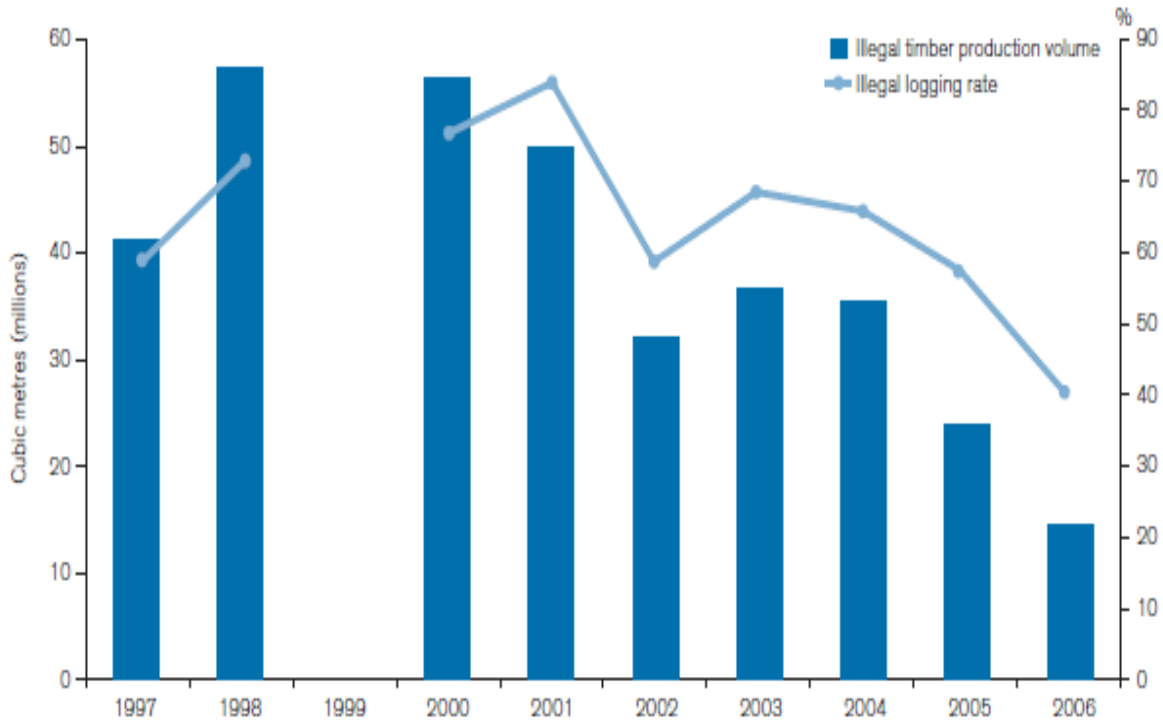
[NGOs の要請で政府が動き出し、密輸も激減した]

事例でわかるように、多くの NGOs が政府、警察等に働きかけ、一方で国際キャンペーンを行った。EU などの政府の支援などでインドネシア政府は 2005 年から違法伐採を取り締まるよう働きかけた。中カリマンタンのタンジュン・プテイン国立公園でもユドヨノ大統領が直ちに違法伐採を停止するよう地方政府、軍、警察等に指令して、違法伐採が停止した。【事例3】のように、企業のトップも違法伐採容疑で逮捕され、そのニュースがインドネシアの全国のテレビで放映された。2006 年以降、次々と各地で違法伐採・密輸容疑で逮捕された。

西カリマンタンでも東カリマンタンでも、中カリマンタンでも違法伐採したら、逮捕されるムードになり、インドネシア側の違法伐採は 2005 年以降激減した。下のグラフは、私たちウータンが委託調査を依頼した Yayasan Titian 等からの聞き取りをもとに、Human Right Watch が 2008 年作成しものと、英国外郭団体チャタム・ハウスが作成したものがあがるが、チャタム・ハウスの図を示した。(Human Right Watch の調査図は 2004、2005 年の違法伐採量が未集計のため)

グラフ:[Indonesia における違法伐採量・違法伐採率の経年変化/ 1997—2006 年]

Figure 5.7: Wood-balance estimates of illegal logging in Indonesia, 1997–2006



Sources: Scotland et al, *Roundwood Supply* (data for 1997 and 1998); L. Tacconi, K. Obidzinski and F. Agungel, *Learning Lessons to Promote Forest Certification and Control Illegal Logging in Indonesia* (Center for International Forestry Research, 2004) (data for 2000 and 2001); NRM-MFP-BAPPENAS, *Forest Futures Scenario Analysis* (NRM-MFP-BAPPENAS, 2004) (data for 2002); Seneca Creek/Wood Resources, *Illegal Logging and Global Wood Markets* (data for 2003); Human Rights Watch, *Wild Money: The Human Rights Consequences of Illegal Logging and Corruption in Indonesia's Forestry Sector* (Human Rights Watch, 2009) (data for 2004 and 2005); Lawson, *Illegal Logging and Related Trade* (data for 2006). The 2009 Human Rights Watch study also provided estimates for 2003 and 2006, both of which are slightly higher than those from the studies used for those years in Figure 5.7.

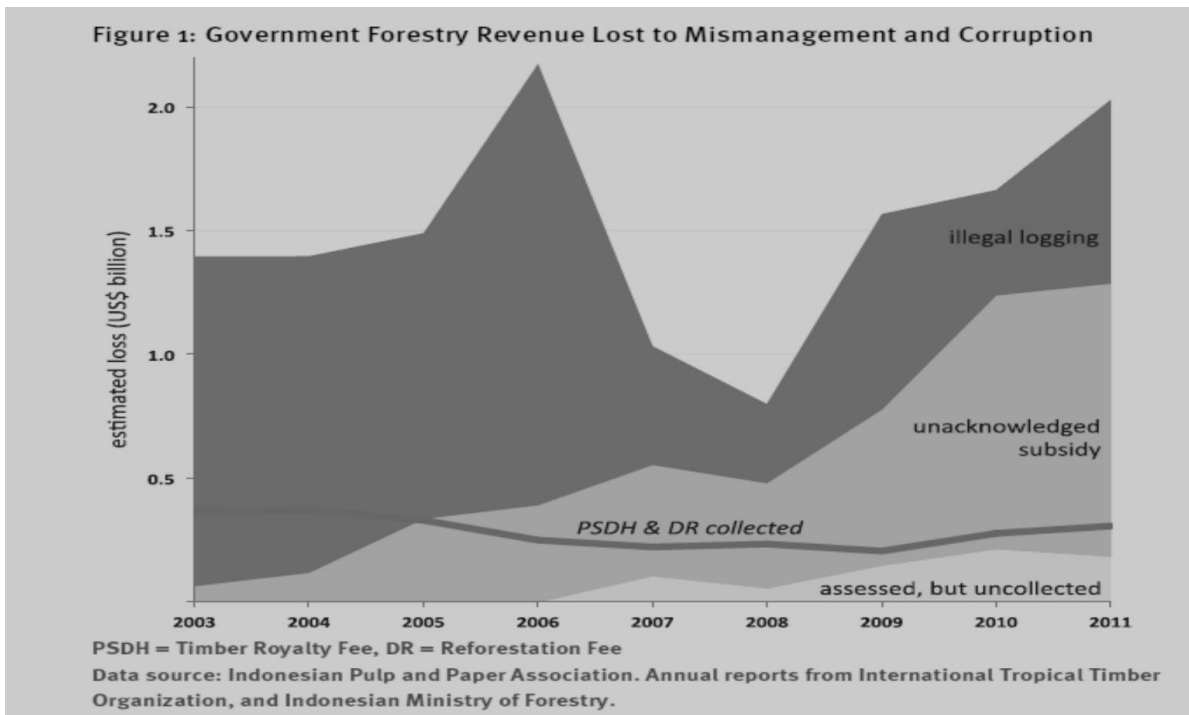
Note: different methodologies were employed by each of the above studies, so caution is required in comparing results between studies.



上左)中カリマンタン・Sampit で違法材摘発(2008)/右)東カリマンタン・ヌヌカンでの摘発(2008)

一方、輸入出来なくなったマレーシア・サラワク州の木材小企業は次々と倒産した。

しかし、多くのインドネシア NGOs メンバーが語るように、大資本のボスは多額の保釈金を払ってすぐに釈放できるところに問題があると。違法伐採・密輸調査が減っていたが、Human Right Watch が最近違法伐採を調査したところ(下表)、多くの報道がされなくなったため、NGOs も情報を知りえないことになり、そのため違法伐採が 2009 年からまたもや増加している。



資料 : Human Right Watch 2013 The Dark Side of Green Growth P8

[写真] 2012年の東カリマンタン・Kutai[クタイ]国立公園での違法伐採



[違法伐採企業のボスたちは、アブラヤシ開発のオーナーへ]



元の森林と破壊後/

西カリマンタンの Sumbas Forest Reserve の森は大半がアブラヤシ農園に変わった！

一方、アブラヤシ農園は1980年に26万haだったが、2006年に約6300万haに拡大。生産量は2000年の700万tから2007年に1700万tに増加している。これには2つの要因がある。

1つは違法伐採企業のオーナーが、アブラヤシ開発企業の代表取締役等に鞍替えしたのだ。これは NGOs からの違法伐採反対の依頼・キャンペーンや警察や一部の軍が摘発へと動き出したから、変身したのだ。森林を激減させた木材マフィアなどは 2000 年初頭からアブラヤシ企業主へと変わった。といっても、これらのアブラヤシ企業では、住民等への暴力や抗争・争議を引き起こしている。

もう1つは、アブラヤシ産業が、国家による振興で国際的になり、メジャーな産業となったからである。森林伐採後再植林を実施するより、アブラヤシ産業のほうがその後の代替利用という点からも企業として仕事をしやすいからだ。

しかし、アブラヤシ栽培は単一栽培で、最低 2000ha 以上なければ搾油工場を造れず、採算がとれない。小規模の小作栽培者の多くを集め、面積を拡大し、銀行等で資金を融資して広大なアブラヤシ農園を造っていく。

アブラヤシ等のプランテーション開発の下記の多くの問題点がある。

(2014年7月記載責任 / 代表・西岡良夫)

開発に伴う 諸問題	・森林生態系の大規模消失(生物多様性の低下、伐採後の放置) →生物資源の喪失、動物と人間の軋轢による農作物被害等 ・森林火災の続発(アブラヤシは乾燥を好む、大規模農園が必須) ・地元住民の権利の侵害(土地紛争、先住慣習権への侵害等) ・違法伐採を併発・増加、 ・泥炭湿地の破壊
プランテーション 操業の問題	・農薬汚染、 ・土壌汚染・水質汚染や侵食 ・労働問題(低賃金、農薬被害、児童労働・不当労働、被害へ未 払) ・Co2(二酸化炭素)の排出、メタンガスの放出